

2010年(平成22年)12月15日(水)

島根大病院

女神の木炭 設置開始



特別個室の天井裏に敷き詰められていく木炭入りの袋

大社の檜皮再利用

島根大医学部付属病院⇨出雲市塩冶町⇨で建設中の新病棟で14日、出雲大社境内で「看護の神様」を祀る社の檜皮などを活用して作られた木炭を天井裏に敷き詰める作業が始まった。

作業に先立ち、木炭3130袋を同病院へ寄贈した出雲大社の千家尊祐宮司が、島根大の山本広基学長と小林祥泰院長に目録を贈呈した。木炭には同大社の祭神・大国主命を看病して助けた神々を祀

る天前社の檜皮から作られたものも含まれる。大学側から感謝状を受け取った千家宮司は、「患者さんたちが一日も早く元気になれるように」と話した。その後、建設中の新病棟5階の特別個室で、出雲大社の神紋「二重亀甲剣花菱」などが描かれた木炭の袋約1

80袋が天井裏に敷き詰められていった。寄贈された木炭は今月末までに、5階と9階の個室計34室に設置される。小林院長は「大社の神様のパワーをもら

えるような気がします」と語った。

【細谷拓海】